

ひがしひろしま 郷土史研究会ニュース

No.606

2025年2月

1月例会報告

広島県特有の文化

志和の標柱について知る

1月例会は、1月25日(土)に、市役所北館市民協働センターで開催され、26人が参加した。冒頭に赤木会長より、新年の挨拶として「昭和100年の節目として、昭和を検証する活動を行いたい」という抱負を述べられた。

研究発表は、今田博幸氏より「志和の標柱(しめばしら)」について行われた。標柱は神社の参道や境内の入口に建てられている一対の石柱で、注連縄を張るために注連柱とも呼ばれている。標柱の表には、国家繁栄祈願、皇室行事等の記念等が記された「宣揚文」が刻まれている。志和の神社には合計13の標柱が建っており、それぞれの神社の宣揚文の内容や寄進者の紹介が行なわれた。一番古い標柱は、大歳神社のもので安政3年(1856)、一番大きなものは大宮神社の標柱で、高さ388.5センチである。

標柱に関しては、広島県の神社庁が発行した「広島県の標柱」という書籍があるが、大々的に調査したものにも関わらず、掲載されていない地域の標柱がいくつもある。

歴史研究においては、書物を鵜呑みにするのではなく、実際に足を運んで現物を確認する必要があることを改めて確認する例会となった。

発表後の連絡では、4月29日開催の「第39回東広島の史跡・文化財を見て歩く会」についての案内があった。実行委員長を務める福村副会長は、「ぜひ多くの会員に参加、協力していただきたい」と呼びかけた。

<例会参加者(敬称略)> 赤木達男、國松宏史、今田幸博、福村博士、国永昭二、中川平介、船越雄治、近藤英治、蔵楽知昭、蔵楽恭子、谷本操、三嶋昇、西本嘉住、宍戸元文、松浦学、天野浩一郎、光田清志、吉村鈴枝、吉田泰義、吉井良平、片山貴志、丸本富美子、堀内幸子、徳永京子、大森美寿枝、進藤真由美(以上26名)

2月例会のご案内

日時 2月22日(土) 13:30~
場所 市役所北館 市民協働センター
発表 「古文書へのいざない」

近藤英治氏

令和7年度郷土史新春登山及び新年会 福村 博士



今年の新春登山は33回目になります。白鳥神社への新春登山は平成6年(1994)、平成23年(2011)に続き3回目で14年ぶりです。

前回までは麓から出発しての登山で、傾斜のきつい山道で大変だったそうです。

1月9日木曜日の9時30分に高屋町郷にある古民家レストラン「山城」へ郷土史の会員と地元2名の参加者20名が集合しました。その日は外気温度が低くて山道の凍結が心配されましたので、事前に私と船越さんとで神社まで雪のある山道を試走して確認をしました。赤木会長さんの新年の挨拶の後、出発前に、慣れない雪道の運転が心配なので急ブレーキをしない、車間距離を十分とるなどの運転注意事項を話した後に、5台の車に乗り合わせ小雪の中を白鳥神社へ出発しました。

お天気が良ければ途中で神社までの丁石などの説明をする予定でしたが、山道にはかなりの雪が積もっており一刻も早く神社へ着くように慎重に運転しながら20分ほどで駐車場へ、駐車場からは雪を踏みしめながら鳥居をくぐり神社へ到着。

蔵楽(知)さんが白鳥神社の説明をする前に、小雪が舞う神社の前で船越さんが集合写真をパチリと撮影、全員が神社に参拝の後に蔵楽(知)さんより白鳥神社の由来について石碑を前に詳しく説明して頂きました。

*詳細は添付資料を参照

この白鳥神社の山には麓から良く見えて目印になるNTTの電波塔があります。

船越さんの説明によると、白鳥神社に隣接する春日神社辺りからあえて木を伐採して切開いた場所からは、年始の時に朝日が昇る絶好の景色が見えるそうです。また、お天気が良ければ瀬戸内海、因島大橋までも見えるとのこと。

このころからやっと雪が止み、眼下にはJR西高屋駅を初めはるか高美が丘団地までも良く見えて大変ラッキーでした。

寒くて震えながら、雪が降り積もった参道を転ばないように注意して車に乗り下山。

下山の途中では、船越さんから白鳥神社へ登る途中にある竹原の田万里へ抜ける道には下馬石の石碑があり、高貴な人もここで下馬してから参拝したとの言い伝えがあるとのこと、そして道中には小寺池という大きな池があり今も満々と水たたえています。この大きな池は江戸時代に氾濫して下方の溝口は大きな被害があり、江戸時代（天保2年 1831）に建立された堤防修復の記念碑が建っています。また最近では平成30年（2018）7月の豪雨災害の土石流により山道や小寺池も甚大な被害がでており、古代から近代までの自然災害の歴史を証明する場所となっています。

寒さで予定より早く下山したために11時には“山城”駐車場へ到着、折角なので近くの“巴神社”へお参りすることになりました。

道中、北海道で電気事業で財を成し、帰郷された後は西高屋村の村長をされた、山田英三氏の屋敷跡を訪ねました。屋敷の石垣は六角形に切った見事な石組で感心しながら往時を偲びました。巴神社の敷地も創建時に、山田英三氏が寄付されたそうです。

“巴神社”は広い土地に立派な鳥居がそびえています。神社の由来は、祭神は応神天皇、仲哀天皇、神后皇后、豊宇氣比売神、スサノウ尊、大日貴命、小彦名命、それぞれの3神社を大正時代に合祀されたようです。

ここまでの参加者（敬称略）赤木会長、國松、蔵楽（知）、船越、吉田、大森、堀内、谷本、光田、川口、間瀬、西本、寺田、神本、小西、斎藤、山本、福村 18名

新年互礼会は、昔の割庄屋で有田氏の邸宅であった古民家レストラン“山城”へ移動。

ここで進藤さんと松浦さんが参加され、総勢20名。

最初に福村実行委員長から新春の会の開催を述べ、改めて赤木会長より年始のご挨拶がありました。

昨年は会員の皆様のご協力により郷土史50周年記念誌発行や県史協の成功の振り返りや原

爆被団協のノーベル賞の受賞、そして「伝統的酒造り」がユネスコの無形文化遺産に登録になるなど大変おめでたい年でありました。今年から皆さんと新たな歴史を作っていく気持ちで取り組み、素晴らしい年にしましょうと意気込みを話されました。

國松事務局長さんの音頭で今年もお茶で乾杯して懇談会を開始。

今年の年男、年女は参加者にいなかったのですが、昨年入会された山本さんと斎藤さんに自己紹介と抱負をお話して頂きました。その後は船越さんから提案があった「郷土史クイズ」を①新春登山②郷土史関連クイズ10問で実施、全問正解回答者が無くて、9問正解者の大森さんと堀内さんが豪華？景品を頂きました。

サプライズで“山城”のオーナーである中市さんからエレクトーンやオカリナで自作の曲を披露していただきました。オーナーの中市さんは7年前にこの地に古民家レストランを開店され第2の故郷と思って生活されている由、お汁粉のサービスがあり感謝です。

今年の干支の巳年についてのお話等は、大森さんに詳しくまとめて頂いている参考資料を見て頂き、その後はいつもの川口さんの篠笛で心を込めて「1月1日」を全員で合唱。最後に蔵楽前会長の音頭で万歳三唱し互礼会を納めました。

「広島大学」が逃げていく

石井 康隆

賀茂学園都市（東広島市）はまだ成長している。学園都市計画として「大学城下街」建設が始まって50年が経過した。当初6万人だった人口が19万人余りになり、まだ現在も成長を続けている。

人口が増え、街が成長しているから大学が来たんでしょと言われる人も出てきているようだが、それは逆で、大学の統合移転の地を賀茂郡西条町下見に決定して、周囲4町が合併して「東広島市」が誕生してから計画的に街づくりを始めたから、街の姿をした街として成長してきているからである。忘れてもらっては困る。人口が増えるから大学が来たのではない。「大学城下街」として計画的に街づくりを始めたから街が成長しているのである。

終戦直後の昭和22年に学制改革が施行され6・3・3・4制が確立し、各県に1校国立大学が創設された。広島県にも国立広島大学が誕生した。この広島大学は、以前の広島文理大、広島高師、広島師範、広島工専などの高等教育機関

8校の集まりでキャンパスが県内8か所に分散して、タコの足大学と言われていた。

大学ではこのキャンパスを統合して一つにしたかったが、その機会に恵まれなかった。そうしたら昭和30年代後半から40年にかけて学生運動が激しくなり、学生と警官が対峙して勉学どころではなくなった。東大の安田講堂にも赤旗が翻り、広島大学の会館にも同じようなことが起こり、これを機会に大学も本腰を入れ、文部省の指導のもと県と一緒に「広島大学統合検討委員会」なるものを立ち上げて動き出した。この時、地元の広島市は大学を迷惑施設のように、横目で見て動かなかった。昭和47・48年のことである。統合計画委員会が動き出した時に、私は県の道路建設課の企画調査課係長だったのでこの委員会の補助員として参加した。キャンパスの候補地が五日市町石内、可部町、西条町の3か所に絞られ、大学街がつくれるスペースの多い西条町下見に決まった。

私の住んでいるところで、村から街になりそうなので、少し嬉しかった。



広島大学造成工事が始まる（昭和57年）

それから昭和57年に第一陣として、私の出身大学の工学部が移転してきた。キャンパスの工事中は雨が降ると長靴を履いて学生が通って来ていたのを思い出す。昭和48年統合計画が始まり22年たった平成7年に全学部が新しいキャンパスに集まり、総合大学の形態が整った。医学部は患者さんの関係で広島に残った。万人の認めるところである。

しかし、令和3年に法学部および大学院法学・政治学プログラム（法科大学院）の東千田キャンパス移転計画を発表した。そして、令和5年に「利便性を整え、法曹志望の学生に選ばれる環境を整えたい」と、広島県の都心である元の東千田キャンパスに帰った。更に、今度は大学祭を西条キャンパスとは別に独立して法学部のある広島市の東千田で開催するという。政治学

プログラムの移転理由の一つが「広く世間を知りたい」ということらしい。「どの学部でも広い世間を知りたいだろう」そのように勝手なことを言っていたら昔のようにタコの足大学に戻ってしまう。分離独立は誰の発想だろうか、学長か部長か知らないが、悲しいことである。それに東広島市長が賛意のコメントを出されたのを聞いてガッカリした。こうして次々と自分勝手に学部が出ていくのではないかと心配である。いくら大学の自主性を尊重すると言っても程がある。統合移転を進める作業をしたものとして、又、東広島市へ出向して来て、街づくりを手伝った者として腹が立つ。



大学城下街建設の一環である西条駅前区画整理事業（平成15年）市制30周年記念誌より

これからも、よく見張っていないと大学の自主性を盾に各学部勝手に勝手気ままに飛び出していかれてしまうかも知れない。統合移転してこられたころは、田舎に来て淋しく学生の質が落ちると嘆かれていたことがあったが、まだそういうことが頭にあるのではないだろうか。淋しいことに大学はこの街から出ていかれる要素を抱えておるので大変心配である。

新規会員 松島治毅さんのメッセージ

11月に東広島郷土史研究会に加入しました、松島治毅です。

大学の卒業論文で酒どころとして有名な西条、灘、伏見を比較し、なぜ他の場所より酒どころとしての成立が遅い西条が日本に名をとどろかせることが出来たのかということを経験として調査をしています。その資料を集めているなか

で東広島市郷土史研究会出版の「西条酒蔵通りの街をつくった 三世代の産業功績者」という冊子を知りました。

その冊子を赤木さんにお貸しいただき、調査をかなり進めることが出来ました。そして、冊子をお返しする際に郷土史研究会の大会についてお話があり、今回の大会に招待していただきました。

今回の大会の中で松木津々二さんの「日本最後の酒都『西條』」という講演は西条の酒について調べている私にはとても興味を惹かれるもので、酒都が既に失われたものだという内容には驚かされました。卒業論文について調べている中で酒都という言葉は目にしていたのですが、講演の中であった本来の酒都の意味での使われ方はしていませんでした。この点について注意しながら論文の調査を行っていかうと思います。

講演後の臨地研修では西国街道四日市宿コースに参加し、西条の酒蔵通りを見学しました。臨地研修でも西条の酒造りに関わった人物について詳しく知ることが出来ました。また、西条の酒造学校がどのように誕生し、杜氏の育成を行っていたかなどについても詳しく知ることが出来ました。

臨地研修の最後に訪問した安芸国分寺は、大会の直前に大学の講義で題材として取り上げられた場所でした。安芸国分寺がどの様に誕生したかなどについては講義で学びましたが、国分寺のどのような建物がどこにあったかや、建物の役割についてなどについては講義では触れられなかったため、今回の臨地研修の説明は安芸国分寺のことについて詳しく知ることが出来る新鮮なものでした。

大学の関係などで毎月の定例会に参加できるかはわかりませんが、これからどうぞよろしくお願ひします。

【第39回史跡文化財を見て歩く会 実行委員会】

第39回史跡文化財を見て歩く会実行委員会を次の日程で開催いたします。お時間が取れる方は是非ご参加いただきますようお願い致します。

日 時	第1回	1月30日(木)	10:00～
	第2回	2月4日(火)	10:00～
	第3回	2月14日(金)	10:00～
	第4回	3月10日(月)	10:00～
	第5回	3月31日(月)	10:00～
	第6回	4月14日(月)	13:00～
	第7回	4月21日(月)	10:00～

場 所 市民協働センター

※周りの会員の方々への声かけもお願い致します。

【郷土史研究会ニュース原稿募集のお知らせ】

郷土史研究会ニュースの原稿を募集しています。会員ならどなたでも紙面で発表できます。パソコンが苦手な方は手書きでOKです。ぜひ、ご寄稿ください。

【新規会員募集中】

活動が気になる方は、下記QRコードから覗いてみてください。



Instagram



HP



Facebook

グループ研究会ご案内

第293回 古文書研究会

と き 2月18日(火) 13:30～
 ところ 市役所北館 市民協働センター
 テキスト 国郡志御用書上帳賀茂郡奥屋村①
 ※古文書研究会は新規会員募集中です！
 見学だけでもOKです。ぜひお越し下さい。

第190回 石造物研究会

と き 2月25日(火) 9:30
 ところ コジマヤ集合
 内 容 福富町・河内町方面臨地研修

第190回 四日市町並研究会

と き 2月10日(月) 13:30～
 ところ 西条本町歴史広場 コジマヤ土蔵
 内 容 「酒都西條」とりまとめ

昔の道探訪会（旧山城探訪会）

2月はお休みします。

原爆資料保存研究会

と き 2月20日(木) 14:30～
 ところ 市役所北館 市民協働センター
 内 容 原爆展について

2月の図書室開放

と き 2月21日(金) 13:00～15:00
 ところ 高屋教育集会所

ひがしひろしま郷土史研究会ニュース 第606号

令和7年（2025）2月5日発行
 編集・発行 東広島郷土史研究会
 会 長 赤木達男 TEL(082)423-7235
 E-mail:akata@t4.dion.ne.jp
 事務局長 國松宏史 TEL090-7979-6234
 E-mail:kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp
 会報編集 間瀬 忍 TEL080-5756-2303
 E-mail:mase shinobu@yahoo.co.jp